

# 特別インタビュー

## Part 467

株式会社ねこ家  
代表取締役

池田 建学 さん

いけ た たて ひさ



### ● Profile

1977年、大阪生まれ。25歳から収益不動産を所有。12年間、大手デベロッパー・ハウスメーカーに従事し、36歳で独立。起業後は、それまでのノウハウを賃貸住宅業界に持ち込み「0円賃貸スキーム」を開発、多くの賃貸物件の収益力を改善した。2015年には『入居希望者が殺到する 驚異の0円賃貸スキーム』を出版。その後、5匹の子猫と老猫を保護したことをきっかけに保護猫活動に携わることに。保護猫活動の問題解決のため、2019年に猫と暮らす家づくり「ねこ大家」事業を開始。関西テレビ、MBSなどメディア取材多数。

猫

へ  
恩返し

ねこ家  
池田建学

# 5匹の子猫との出会いが人生を変える 猫と人が幸せに暮らせる快適な住まいづくりを

「建築の力で猫を幸せにする」。道端で出会った5匹の子猫と老猫を保護したことがきっかけで、日本には猫とともに暮らせる住まいがあまりにも少ないことを痛感した池田建学さん。元々、一般的な住宅づくり等を手掛けていたが、2019年に猫と暮らす家づくり「ねこ大家」事業を開始。全国でも珍しい「猫に特化した家づくり」を展開し、これまで200室以上の猫と暮らせる住まいを提供してきた。「野良猫を1匹でも多く安全な家に入れる」ことが池田さんが掲げる最大のミッション。自身も6匹の猫とともに暮らす愛猫家で、保護猫活動にも尽力している。

### 「社員として不動産業に従事、36歳で独立 猫の飼育阻害要因の第1位は「住居」

36歳で起業するまではサラリーマンをされていたとか。

池田 学校を卒業してから、特段何をするということもなく、どちらかというとチャランポランな生活を送っていました。25歳で父が亡くなり相続の遺産分割で不動産を取得したことを契機に、きちんと不

動産の知識を得たいと考え不動産業界に就職。サラリーマン生活を送りつつ、一方で個人の物件も所有していたため、個人事業主としても不動産運用をやりながら、不動産や建築に関する資格を学びライセンスを取得していきました。様々な不動産事業を展開するなかで賃貸物件の収益力改善で成果をあげ、不動産オーナーや地主さんたちを対象とした経営コンサルティング業務などにも従事していました。



猫と人が快適に暮らせる「ねこハウス」。毎日同じ空間で過ごす猫たちが飽きない間取りにこだわるほか、随所に猫への愛も盛り込まれている。

——独立を考えたきっかけは。  
池田 有難いことにサラリーマン時代、様々な企業からお声がけをいただけ、転職をいくつかするなかでキャリアアップを図ってきました。そんな状況下、自分のなかでは年収1000万円を超えたら起業しよう、と決めていて、33歳でそれを達成しましたが、辞めるタイミング等もあって最終的には36歳で退職。そして独立後は、一般的な住まいづくりをはじめ、住宅・店舗のリノベーション、建築の企画・設計・施工や不動産の売買、賃貸管理まで幅広く事業を展開しています。

——そんななかで猫との出会いが？  
池田 5年前に今の場所(大阪・鶴見区)に事務所を移転したのですが、ある日、駐車場に向かう道端で5匹の子猫を見つけて。野良猫だったのか、猫風邪を引いていたように目が潰れてしまっていた子もいて…。その時は後先考えずこの5匹の子猫を保護し、病院に連れていき、処置後も日々のお世話から去勢・避妊手術もして、里親探しをすることにしました。しかし保護猫団体さんを通じた里親探しはなかなかハードルが高く、手続きなどに時間がかかりスムーズにいかないことも…。だったら自分でした方が早いとオフィスで毎日が譲渡会みたいな感じで、希望者に来てもらう形を取りました。もちろん、身分チェックや自宅の確認など、保護猫団体さんがやっている流れをきちんと行なった上です。同時

期にインスタグラムを開設し、里親募集の発信を行ない、SNSの力も借りながら何とか5匹の子猫を譲渡することができました。  
——それから保護猫活動を続けてこられたんですね。  
池田 これまでに合計36匹の猫を新しい家族のもとにお渡しすることができました。今僕の家には6匹の猫がいて、もちろんその中には保護猫もいるのですが、譲渡される立場と譲渡する側の両方を経験したからこそ見えてきたものもたくさんありました。特に譲渡する側は、猫の捕獲から日々のお世話、治療、去勢・避妊手術、通院、里親探し…など、実際にやってみないと分からない想像以上の大変さがめちゃくちゃあって。そんな里親探しをするなかで一番ネックになっていたのが、猫は飼いたいけど、猫とともに暮らす家がないという人がすごく多かったことです。実際にあるペットフード協会の統計では猫の飼育阻害要因の第1位が「住居」ということも分かっています。そうか、それならば猫とともに暮らせる家(部屋)を作ればいんだと。仮に家があったとしても多頭飼いできないとか、猫にとつてすごく条件が悪い間取りだったというのが現実で、そうした現状を変えたくて2019年に猫と暮らす家づくり「ねこ大家」事業を開始しました。

**ねこハウスから猫可賃貸物件まで  
“猫に特化する” 仕事が事業の柱に**

——具体的にはどのような事業を展開しているのですか。  
池田 事業の内容は多岐にわたりますが、猫と人が快適に暮らす家が事業の軸になっているので、ここをプラさず新築のねこハウスから中古のねこハウス、ねこリノベ、「猫可」の賃貸物件まで幅広く手掛けています。近年は昔と違って単身者で猫を飼う人が増えているのですが、猫可の賃貸物件が極端に少ない。そこにも着目し、猫可の賃貸物件を作ったら、すぐに部屋が埋まり、需要が高いことを実感しました。  
——猫と暮らせる住まいづくりでこだわっている点を教えてください。  
池田 単に猫の飼育ができるだけの家ではなく、猫と人が快適に暮らせる「猫に特化した」住まいづくりを徹底してこだわっています。事前にどんな間取りなのか、家族構成、飼っている(飼う予定の)猫の性格や頭数、猫同士の相性等もあわせて丁寧にヒアリングしたうえで、猫の習性を正しくお伝えし、

愛猫に適した住環境を決めていきます。  
例えば、玄関から脱走させないための脱走防止扉は必ずご提案させていただきます。猫に脱走してほしくない、また家の中では、そこが猫にとって「一つの街」に見立てられるようなワクワクする空間づくりを考えます。適度な運動ができるキャットウォークやキャットステップがあれば楽しいだろうし、あと猫は誰にも干渉されないスペースを好むので、猫がリラックスできる専用のスペースやベッドを確保してあげたりとか、猫のためにできることは山ほどあるので、僕たちの長年の経験をもとに、各家庭に適したものを提案させていただきます。  
——住居のほか、猫カフェや保護施設のリノベーションもされているんですね。  
池田 はい、これまでも多数の施工実績があります。以前に保護猫活動をされている団体さんのリノベーションを手掛けたときは、非常に喜んでいただけました。保護猫団体さんのリノベをすることで、そこで預かっている猫たちが今まで以上に健やかに暮らせますし、保護猫の受け入れも増やせるので、取り組む意義はあると感じています。  
——拠点が大阪だと対応エリアは関西になりますか。  
池田 主に関西圏を施工対象エリアとしていますが、近年では遠方からもお声がけいただくことが増え、ご来社が難しい場合は電話やZoomなどのオンラインでの打ち合わせも可能です。最近で一番遠かったのが山口県ですが、この時はわざわざ山口から問い合わせをいただき、希望の猫ハウスをお届けすることができました。25年3月現在で200室以上の猫と暮らせる住まいに携わらせていただいております。小さい工事だと100万円程度のものから、新築だと4000万円くらいの物件もあります。僕たちは一切、営業活動をしていないのですが、InstagramやX、YouTubeやホームページなどを見てお問い合わせいただくことも増えてきて、有難いことにたくさんお仕事をお願いしています。  
——Instagramやホームページを拝見しましたが、すごく見応えがありますね。  
池田 ありがとうございます。里親募集はInstagramを介して紹介の輪が広がっていますね。ホームページは建設会社や不動産屋さんでは絶対に作らないようなものを1年半かけて作りました。  
——とても可愛いホームページで思わず見入っ



オフィスには池田社長と暮らす猫も出勤。



まいりました。池田 何をするのもすべて猫目線なので(笑)。

**猫専門のトリミングサロン開設  
目指すのは外猫を安全な家の中に**

——今後はどのような活動を。  
池田 今年7月下旬に自社ビルに移転予定で、JR・阪急淡路駅方面に引越します。3階建てで1階には猫専門のトリミングサロン「にゃんこの湯浴み」とアートギャラリーを開設。アートギャラリーでは猫クリエイターさんがイベントなどを開くのに利用してもらい、あとは月1回程度、譲渡会場として保護猫団体さんに使ってもらえればと考えています。2階が事務所、3階が会議室で、屋上が庭園のようになっていて猫が外に出られる「キャテリオ」という遊び場を作っています。  
——猫専門のトリミングサロンとは全国でもユニークな取り組みです。  
池田 保護されチャンスをつかんだ子をキレイにして、幸せなお家へと繋げてあげたい思いからサロンを立ち上げました。外で過酷な生活を余儀なくされてきた猫たちは汚れていて毛がパキパキに固まっていたりするので、そういう子たちをキレイに洗ってあげたり毛を整えてあげられたらと思う。この自社ビルが猫と人が行き交うモデルのような場所になればいいなと考えています。  
——自社ビルが完成すれば、さらに出来ることが増え活動の輪が広がっていきますね。  
池田 僕が目指すのは、外猫を1匹でも多く安全な家の中に入れること。里親探しは僕なんかより、保護猫団体さんの方がよほど優秀なのでそちらはお任せし、ならば出来ないことを自分はやろうと。それが猫と人にとって快適な家を作ること。不動産と建築の力があれば、猫を助けてあげられる場所を確保することが出来る。住まいづくりを通して、猫と人を幸せにできることがこの仕事の醍醐味です。